

算 数 通 信

テーマ:「自らの学習を調整する」とは?

「**自らの学習を調整する力**」という言葉、よく見聞します。この言葉がどこからきて、どういう意味なのか等、今一度調べてみました。「**自らの学習を調整する力の育成—ICTの活用を見据えて—**」坂本純一先生(明海大学 教授)の論文を、以下要約します。

一斉授業や個別最適な学びのあり方を考えるうえで、大いに参考になるところが多いと思いました。

1 どこに示された言葉か

現行学習指導要領に整理された育成すべき資質・能力の一つの柱「**学びに向かう力・人間性等**」の「**学びに向かう力**」を評価する観点として「**主体的に学習に取り組む態度**」が示されました。さらに、それを評価する方法として「**粘り強い取組を行おうとする側面**」と「**自らの学習を調整しようとする側面**」から評価することが示されています。

「知識及び技能」

「思考力・判断力・表現力等」

「**学びに向かう力・人間性**」・・・「**学びに向かう力**」を評価する観点として「**主体的に学習に取り組む態度**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価方法として「**粘り強い取組を行おうとする側面**」「**自らの学習を調整しようとする側面**」**2 「個別最適な学び」と自己調整力との関係**

令和3年度中教審答申において、「**個別最適な学び**」について、「**指導の個別化**」と「**指導の個性化**」に整理され、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されています。

3 自ら学習を調整するとはどういうことか

「**自らの学習を調整するとは、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤することである。**これには、学習について自らをやる気にさせることや、他者との関わりの中で自らの学習を望ましい方向に向かわせていくことなどが含まれている。」

4 自らの学習を調整することの具体例

論文では、「①達成可能な目標の設定」を含め、**24の項目**が挙げられています。ここでは、イメージをもていただくために5つ載せます。

「⑩ 学習スタイルの選択」

- ① 達成可能な目標の設定
- ⑩ 学習スタイルの選択
- ⑪ 仲間同士で学び合うこと
- ⑫ 学習状況の振り返り
- ⑬ 次なる目標の設定

見て理解する、聞いて理解する、触れて理解するなどさまざまな学習スタイルの中から、その時の目的に合ったスタイルを選択したり、うまくいかないときには別の学習スタイルに変更したりするなどの調整を行うことである。

5 学習方略と学習の自己調整とは

- ・「**学習方略とは、学習を効果的・効率的にするための方法**である。例えば、「漢字を何回も見て覚える」ことや「漢字を何回も書いて覚える」ことなど。」
- ・「**学習方略の自己調整とは、この単語は2回見ただけで覚えられたが、別のこの単語は覚えられなかったのもっと繰り返してみよう、のように学習方略をその場その場に応じて調整する行動**である。また、何回見ても覚えられないので書いて覚えよう、のように学習方略を変更することも含んでいる。」

6 自らの学習を調整する力を育てるための教師の役割

- ・「これらの学習方略の自己調整を**最初から自在にできる生徒はいない。**」
 - ・「教師の役割は、一言でいえば、児童生徒を自律していない学習者から自律している学習者へと導くことである。……そして大切なのは、**教師から児童生徒に学習方略の自己調整を促すきっかけを与える**ことである。例えば……」
 - ① 学習の振り返り時間を授業の最後や単元の途中、単元の最後などに設定する。教師は児童生徒が振り返ったことに対するフィードバックを与える。
 - ② 仲間の考え（発言や書いたもの）と自分の考えを比較して、自分の考えを調整する場面を設定する。プロジェクト型学習などは、調整する場面が豊富に含まれている。
 - ・「その際に、教師が基本的にとるべき行動は、児童生徒に対して指示・命令的ではなく**自ら考えさせようと仕向ける**ことである。例としては次のようなことが考えられる。」
 - ① 児童生徒に個別で作業する時間を与える
 - ② 児童生徒の発言を促す
 - ③ ヒントを与える
 - ④ 児童生徒がつまずいた時の支援を工夫する
 - ⑤ 理由を説明する
 - ⑥ 励ます
 - ⑦ 家庭学習への支援を行い（※）
- ※ ⑦については、21個の例が示されている。

ここからは、ICT の活用話題に移ります。

（資料）「教育の情報化に関する手引き（追補版）」（文部科学省 2020 年 6 月）が示されています。

1 1 人 1 台端末の時代でできるようになったこと

- ① 一斉授業（教師による教材の提示）
- ② 個別学習 ア～オの5つが挙げられている。
- ③ 協働学習 ア～ウの3つが挙げられている。

2 自らの学習を調整する力の育成における ICT の活用

自己調整力の育成に、ICT がどうかかわれるかについてです。7つ挙げられています。

- ① 学習方略の自己調整の変容を把握するのに ICT を活用する
- ② 学習方略の自己調整に対する信頼感を高めるのに ICT を活用する
- ③ 振り返りに ICT の情報共有機能を活用する
- ④ プロジェクト型学習に情報共有機能を活用する
- ⑤ 個人端末の録画機能による自己評価と改善
- ⑥ 自己評価・助言ソフトの活動
- ⑦ 家庭学習スケジュールの自己調整への ICT の活用
- ⑧ その他

「自ら学習を調整する力」の育成を目指すということは、子どもたちが無意識に行っている学習力向上につながる方法を、教師や学校集団で意図的に伸ばしたり、指導したりしていくことだと理解しました。主体的に取り組む態度を養うために、意図的に育てようと取り組まなければならない能力だということになります。

それだけに教師の役割や学校としての方向性が大事になってきます。各校で、どのような場面で、どのような自己調整力を育てていくかを決めて、取り組んでいくことになるんだろうと思いました。

最後に、このような論文に基づいて学校の実践は取り組んだ方がよいのではないかと感じました。なぜなら、現場のできることは研究ではなく、実践ですから。子どもたちに有効な実践を増やしていくことだからと思うからです。